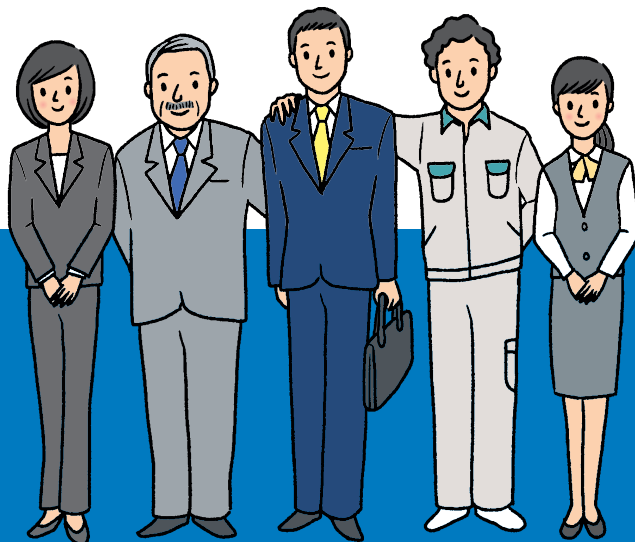


ドナー候補者の職場の皆さまへ

白血病など重い血液の病気と診断される人は、年間およそ1万人。
医療の進歩で薬などの治療が功を奏する患者さんが増えてはいるものの、
移植でしか治癒が望めない患者さんはまだ多く、
年間2,000人以上の方が骨髄バンクを通しての移植を望んでいます。
そうした患者さんのためにドナー登録している方は、現在47万人以上。
しかし、どんなにお気持ちがあっても、
患者さんと白血球の型が適合しなければドナー候補にはなれません。
また、ご都合や健康条件が整わなければコーディネートを進めることはできず、
移植を待っている患者さんのうち移植を受けられる方は6割にすぎません。

職場の皆さまにとっては、ドナーになると、何日くらい仕事を休まなければならないのか、
提供後の体調は業務に影響しないのか等の疑問がたくさんあると思います。
ぜひ造血幹細胞提供の内容をご理解いただき、ご協力いただければ幸いです。



骨髄・末梢血幹細胞提供のコーディネートの流れ

多くの場合、書類を返送いただいてから1ヵ月以内に確認検査を実施し、採取は2～3ヵ月後を目安に進めています。その間に8回程度、医療施設へお越しいただきます。日程はドナーさんの都合に配慮しながら事前に相談しますが、施設や患者側の事情でご希望に添えない場合もあります。



白血病など血液の病気にかかると血液を正常に作れなくなり、様々な身体の不調が起こります。

これらの病気の治療はとて難しいのですが、治癒が期待できる治療法として造血幹細胞移植があります。

移植を受けた患者さんは、つらい副作用や重い合併症のリスクもありますが、骨髄バンクを通じ毎年1,200人以上の患者さんが移植を受けています。

このあと患者さんは移植への準備を進めるため、最終同意以後は同意の撤回はできません。

採取前4週間は感染予防のため海外渡航はできません。出張予定にはご注意ください。

候補のお知らせ

患者さんとHLA(白血球の型)が一致すると、ドナー候補のお知らせが届きます。



通院
1回目

確認検査

コーディネーターからの詳しい説明とともに、仕事の状況や都合、提供意思などを確認。その後、問診・採血があります。



通院
2回目

最終同意

複数のドナー候補からもっとも適した方が最終候補に選ばれます。



通院
3回目

採取前健診

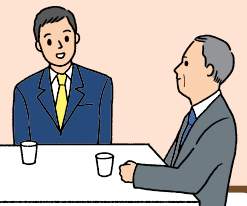
採取の約1カ月前に詳しい健康診断を実施。結果によっては再検査が必要になったり採取が中止になることがあります。

採取の方法は「骨髄採取」と「末梢血幹細胞採取」の2種類があります。

ドナー候補
マサト君



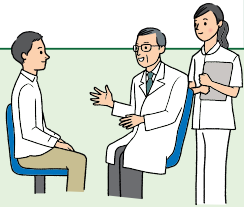
やった！
はじめて候補になったぞ。
ぜひ協力したいけど、休みは取れるかなあ…？



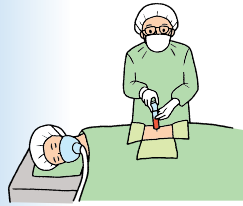
提供方法は自分で選べるのかと思ったら、患者さんの状況によるらしい。末梢血からの採取だと1週間くらいの入院になるそうだから、会社には早めに相談しなくちゃ。

移植前、患者さんは前処置という強い副作用を伴う治療を受けます。

体調によっては、移植を延期したり中止せざるを得ない状況になることもあり、ドナーさんの採取日程が変更になり、日程の再調整をお願いすることがあります。



骨髄採取の場合



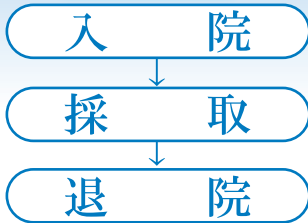
通院
4~5回目

自己血採血

採取量に応じ事前に自分の血液を採取・保存。採取時に返血します。



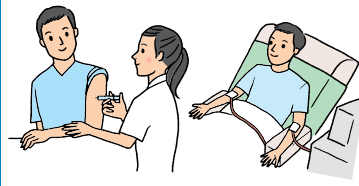
4日間程度の入院



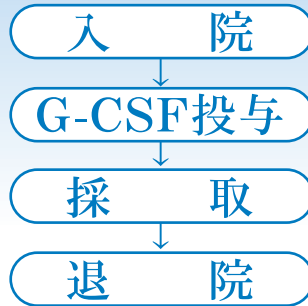
全身麻酔をかけ、骨盤の骨に針を刺して、骨髄液を吸引します。

退院後、1週間程度は痛みが残るため、過度な運動や重労働は避けて。

末梢血幹細胞採取の場合



7日間程度の入院



G-CSFという白血球を増やす薬を数日間注射し、造血幹細胞が骨髄から血液中に十分あふれ出てきたところで採取します。

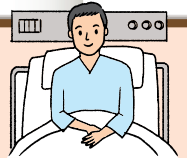
成分献血のときと同様、両腕の血管に針を刺し、遠心分離機で造血幹細胞だけを取り出し、残りの血液は片方の血管に戻します。



通院

採取後健診

いよいよ明日から入院だ。候補になってから3カ月。採取日程が決まってからの1カ月は、目が回るほどバタバタだった。休みを取るたびに仕事をカバーしてくれた課のみんなに感謝！



退院後、プラス1日休ませてもらって、今日から出勤。少し痛みと疲れはあるけれど、重い書類ケースを先輩が運んでくれたり、みんなの気遣いで、ほぼいつも通りに仕事できました。

ドナーMさんの場合

勤務先は社員20名ほどのメッキ工場です。有給休暇はあっても、現実には自分が休めば作業が滞り同僚に迷惑がかかります。以前候補になったときはあきらめ、残念な思いが残りました。

今回、最終候補に選ばれ社長に気持ちを伝えたと、「立派だね!」と言ってくれて…。嬉しかったですね。

健診、自己血、入院と、たくさん有休を使ってしまったが、同僚が皆でカバーしてくれ、なんとか無事に提供できホッとしました。皆に感謝です。

ドナーの負担のことは、あまり知られていません。もう少し広まって、理解を得られやすくなるといいな、と思います。

ドナーYさんの場合

メーカーのエンジニアで、業務ごとにプロジェクトチームを組んで仕事をしています。海外出張も、1~2カ月に一回は行っています。

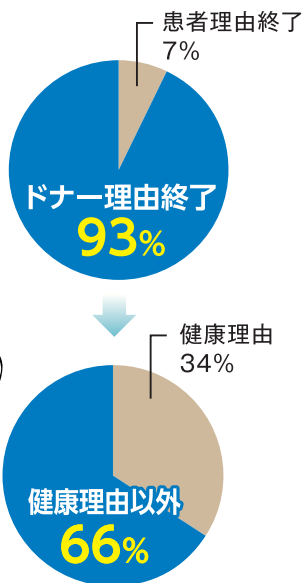
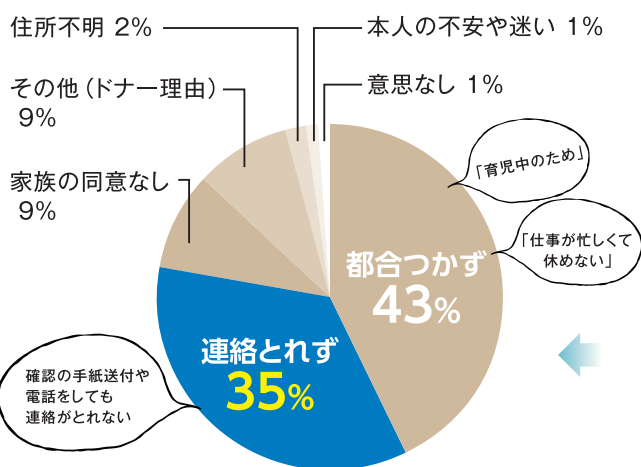
最終候補として選ばれたときには、家族はもちろんですが、チームのメンバーにもすぐ、相談しました。自分が提供するとすれば、時期によっては海外出張も代わってもらわなくてはいけませんから。

申し訳ないな、と思いつつ相談したところ、「俺らががんばれば、だれか患者さんが助かる、ってことだね?」と、快く協力を引き受けてくれました。心強かったですね。提供は自分一人の思いだけでできることではないと、つくづく感じました。



多くの候補者が「都合つかず」で終了しています

終了別理由件数 (2015年度実績)



2015年度に適合通知をお送りしたドナー候補者2万7867人のうち、最初の段階でコーディネートが終わった方は、1万3681人と、およそ半数。

健康面以外の終了理由で一番多いのが「都合がつかない」というものです。

ドナー候補者の多くは、働き盛りの年齢です。提供のための時間を捻出するのは容易ではないと思いますが、職場の方々のご協力や働き方の工夫によっては、提供が可能になることもあります。

ドナーを支えるしくみ

提供に関するドナーの方の費用負担はありませんが、下記の制度は、ドナーの方の経済的負担の軽減に役立つ制度です。

ドナー助成制度

骨髄バンクを介して骨髄または末梢血幹細胞を提供したドナーに対し助成金を支給する制度*が、全国の市区町村で導入されはじめています。現在までに導入している市区町村は全国で230を超えています。

提供に関するドナーの費用負担はありませんが、この制度により提供のために休むことで収入が減ってしまうという経済的な負担を軽減できます。経済的な理由で辞退する人が減ることで、患者にとっても、移植のチャンスを増やすことができます。

また、ドナー登録を躊躇している方々の背中を押す制度としても、期待されています。

*一部自治体ではドナーが在籍する事業所に対しての支給もあります。



企業の取り組み

生命保険会社P社さん

当社は「人間愛・家族愛」を基本理念として掲げています。それをどう具現化していくのか、どう社員をサポートしていくのか検討した中で「ボランティア休暇・ドナー休暇制度」を平成14年4月1日に制定しました。平成17年には制度を大きく改訂し、これまで5日だったドナー休暇を10日間にするなど、より社員が利用しやすい仕組みにしました。

制度を導入した当初は、こんなにたくさん提供者がでるとは思ってもいませんでした。骨髄バンクも含め、ボランティア活動に積極的に参加してもらうための制度なので、利用者が多いことはとても嬉しいことです。

これからもボランティア活動をバックアップしていける体制を整えていきたいと考えています。

※骨髄ドナー特別休暇制度

ドナーが提供までに要する検査や面談・入院等の日数を、ドナー自身の有給休暇を使用するのではなく、勤務先がその休日を特別休暇として認めるのが「骨髄ドナー特別休暇制度」です。

この制度はドナーの方の肉体的、心理的な負担の軽減に役立ちます。現在、340を超える企業が「骨髄ドナー特別休暇制度」を取り入れています。

CSR(社会貢献)の一環としても導入をご検討いただけますと幸いです。

<発行者>

公益財団法人 日本骨髄バンク

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3丁目19番地 廣瀬第2ビル7F
TEL.03-5280-8111(代表) FAX.03-5280-0002

<http://www.jmdp.or.jp/>

ドナー体験した人の声などをお伝えしています。

コミュニティサイト ドナーズネット

<http://www.donorsnet.jp/index.html>

2017年4月1日 初版発行

骨髄バンクに関するご質問・お問い合わせ

日本骨髄バンク

検索